

9/4日

# 推進、反対両者の溝深まる

## 国治水、利水とも「妥当」

県と佐世保市が国に申請から約4年が経過して「事業認定」が告示された川棚町の石木ダム計画。推進派は歓迎する一方で、反対地権者13世帯60人は反発を強め、認定取り消しの訴訟を起こす方針を示しており、双方の溝は深まる一方だ。【柳瀬成一郎、大場伸也】

### 石木ダム計画事業認定

国に石木ダムの事業認定が申請されたのは 2009年11月。民主党政権によるダム再検

証で手続きが一時中断したが、国は12年6月に事業継続を決めたことで事業認定の手続きも再開していた。事業認定では、問題となっていた佐世保市

の利水、川棚町の治水の両面の主張を認める結果になった。国は利水を「海水淡水化案や地下ダム案などと比較しても妥当」と判断。治水については「河川改修と比較しても合理的」とした。

反対地権者のリーダー役の岩下和雄さん(66)は「過大とされる佐世保市の水需要予測も含め、疑問点全てを(認定取り消し訴訟の)法廷で問いたい。事業認定されても川棚に住み続けることは変わらない」と語った。



川棚町の建設予定地周辺にはダム反対の看板が並ぶ

#### ◆ 石木ダムを巡る手続き ◆

